ILEC理事会

資料番号4

2021年度活動報告

2022年5月31日

（公財）国際湖沼環境委員会
理事長　　竹本和彦
副理事長　中村正久

報告事項

1. ILEC中期展望の策定

2. 国際協力の推進

   2-1 「持続可能な湖沼管理」決議案の採択

   2-2 UNEPとの協力協定更新

   2-3 第18回世界湖沼会議

3. 普及啓発及び人材育成

4. 地域社会貢献活動

1.「ILECの新たな中期展望」の策定

- 近年「持続可能な開発目標」（SDGs）達成に向けた取組、持続可能な湖沼流域管理の主流化を巡り国際社会における動向が加速。
- ILECの使命である「湖沼流域環境の持続可能な管理と保全に貢献」する世界の中核的組織として一層の役割が求められている。

ILECのこれまでの活動実績を踏まえ、ILEC活動の更なる戦略的展開の枠組みとして、「湖沼流域管理の主流化に貢献するILBM活動の更なる推進・普及」、「湖沼・静水域のグローバル評価とSDGs達成に向けた取組推進」を活動ビジョンとした「ILECの新たな中期展望（2022-2025）」（仮称）の策定を進めた。

2．国際協力の推進：
2-1 「持続可能な湖沼管理」決議案の採択
UNEA5.2（2022年3月）

第5回国連環境総会（UNEA5.2）に向けて、インドネシア政府は「持続可能な湖沼管理」決議案を提出。

決議案は、深刻な湖沼環境問題に当面するアジア、アフリカ、中南米の開発途上国や、多くの新たな課題に直面する日本、北米、ヨーロッパなどの国々の賛同の下で採択。

ILECもUNEPと連携し、決議案の策定や採択に向けて支援を行った。

「持続可能な湖沼管理」決議事項

全ての加盟国に対する行動要請：

1. 湖沼流域全体に亘る統合的管理の実施
2. 気候適応、生物多様性保全などを含む国家開発計画に湖沼を統合
3. 湖沼の有する幅広い価値（文化的、社会的側面を含む）を考慮
4. 持続可能な湖沼管理に向けた多様なステークホルダーの関与促進
5. 政策に資する科学の推進
6. 統合的な湖沼管理のための国際的ネットワーク協力の推進

UNEP事務局長に対する行動要請：

1. ラムサール条約等と連携した持続可能な湖沼管理の推進支援
2. 優良事例の共有に向けた加盟国の協力促進
3. 湖沼の果たす役割を強調するため、持続可能な湖沼管理の主流化及び持続可能な湖沼管理の意識改革を促進

2-2 国連環境計画（UNEP）との協力協定（MOU）の更新（2021年12月）

UNEPとのMOUを、協力分野において新たに下記内容を追加するとともに、2026年まで延期する内容で更新。

〔協力分野で新たに追加された事項〕

1. 「湖沼の主流化」の提言を統合的水資源管理（IWRM）の優先課題として位置付ける。
2. 世界水質連合（WWQA）との連携と「湖沼の主流化」等に向けた両者のイニシアチブの強化を図る。
3. 効果的な統合的湖沼流域管理（ILBM）プラットフォームの構築を目的とし、人材育成を推進するためのプログラムとトレーニングの開発と実施を行う。

2-3 第18回世界湖沼会議（WLC18）開催

◆ WLC18（メキシコ グアナフアト：オンライン）

テーマ：より良い社会に向けた湖沼のガバナンス・回復力・持続可能性

会期：2021年11月9日～11日

主催：グアナフアト大学、
公益財団法人国際湖沼環境委員会

参加者：58ヵ国、1,032人

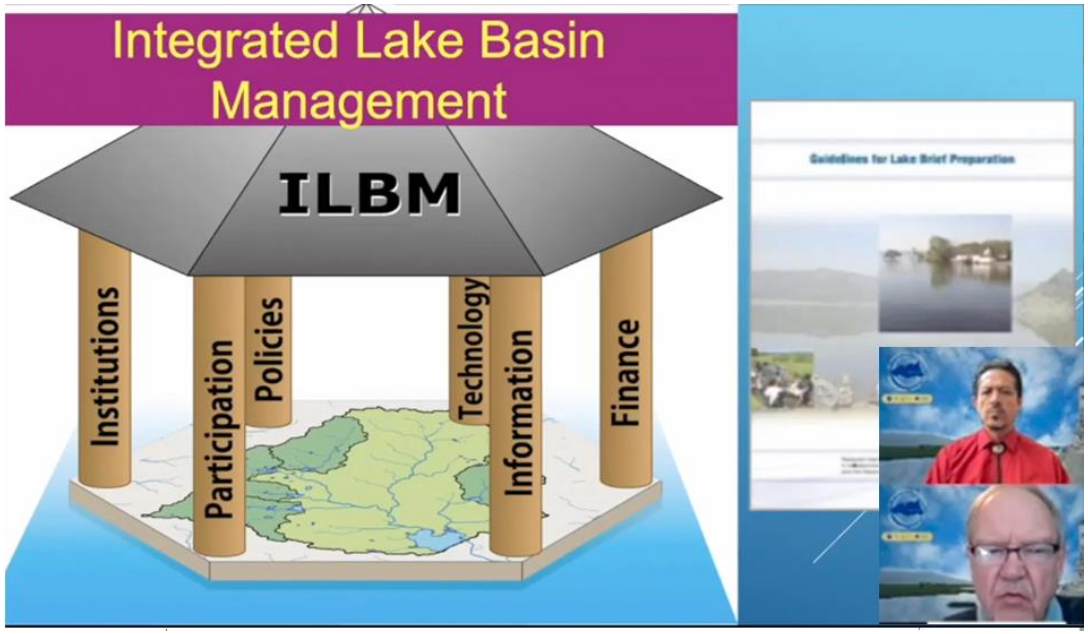
WLC18：湖沼および湿地帯の主流化 特別セッション開催

1. 目的：湖沼流域管理の幅広い取組への気運醸成
2. 共催者：UNEP & ILEC
3. テーマ：Mainstreaming Lakes and Wetlands in the Global Water Agenda and SDGs
4. 日時： 11月11日（木） 7:00～10:00（日本時間）
5. 主な登壇者：
   - 加盟国：日本（川又課長）、インドネシア、ペルー他
   - 国際機関：UNEP, GEF他
   - アカデミア：ILEC科学委員会メンバー等
6. 視聴者：17ヵ国、112人

WLC18：ILBMワークショップ開催

アジア地域および中南米におけるILBM普及推進を目的とした3つのテーマによるILBMワークショップを開催。（2021年11月）

- 「アジアにおけるILBMの経緯と課題」
- ラテンアメリカ・ネットワークによる「ILBMの取組の現状と課題」
- 「グアナフアトILBMワークショップ」



グアナフアト宣言の主要メッセージ

水資源の持続可能な供給をなくして、持続可能な開発目標（SDGｓ）を達成するは難しい。

そのことから、世界の水問題において、湖が大変重要な役割を果たしていることを認識すべきである。生態系サービスの健康と人間の健康は密接な関係にあり、湖沼は、地球環境の状態を我々に知らせてくれる窓であり、世界が持続可能であるかどうかを映し出している。

全人類が持続可能な水資源の利用を果たすべく、以下のようなことを提言する。

- 国連機関、政府、国際的機関等が協力し、世界での湖沼主流化に向けて取組む。
- アフリカ、アジア諸国等での統合的湖沼流域管理（ILBM）の事例をふまえ、気候変動に象徴される世界的問題に対して湖沼分野でのアプローチを推進する。
- ラテンアメリカでの湖沼分野におけるネットワークを強化し、知識・経験の共有や情報交換を通じて、SDGｓの達成を意識した政策の推進や湖沼における問題の理解を進める。
- 湖沼の未来を担う子ども達のリーダーシップの育成、彼らの考えや声を湖沼の持続可能な利用に反映していくため、世界中の子供達が協力できる体制の構築やそれぞれの国や地域での活動・知識を共有し、協力した解決策の策定をサポートする。

3．普及啓発及び人材育成

- **科学委員会活動運営事業〔De-centralization〕**
  - ➢ メキシコ科学委員が進めるラテンアメリカでのILBM普及を目指した湖沼流域環境保全関係者ネットワーク構築を支援。→ 科学委員会活動推進基金を活用
- **ILBM普及・モデル事業**
  - ➢ 2022年度よりマレーシアにおいて“住民の生態系サービス共有価値評価（PESSVA）を導入し、湖沼環境保全活動を実施すべく環境再生保全機構の地球環境基金の助成を申請。→ 助成交付内定
- **ILBM普及推進ツールの開発・整備**
  - ➢ 滋賀大学とのLAKESシステムの知的財産権共有の覚書（2020.12）に基づき、利便性を深化させた「知識ベースLAKES-Ⅳ」を開発。

    → ILECホームページ上での公開に向け調整中。
  - ➢ 統合的湖沼流域管理－生態系サービス共有価値アセスメント（ILBM-ESSVA）のガイドライン発行に向けた調整を推進。

JICA-ILEC 課題別研修（リモート）

「水資源の持続可能な利用と保全のための統合的湖沼・河川・沿岸流域管理」コース 〔JICA受託事業〕

Part 1 (2021年9月6日～12日) リモート研修
Part 2 (2022年1月18日～2月1日) リモート実習

- アルメニア、バングラデシュ、キューバ、ボンジュラス、マレーシア、ザンビア、ボツワナの7カ国から14名が参加

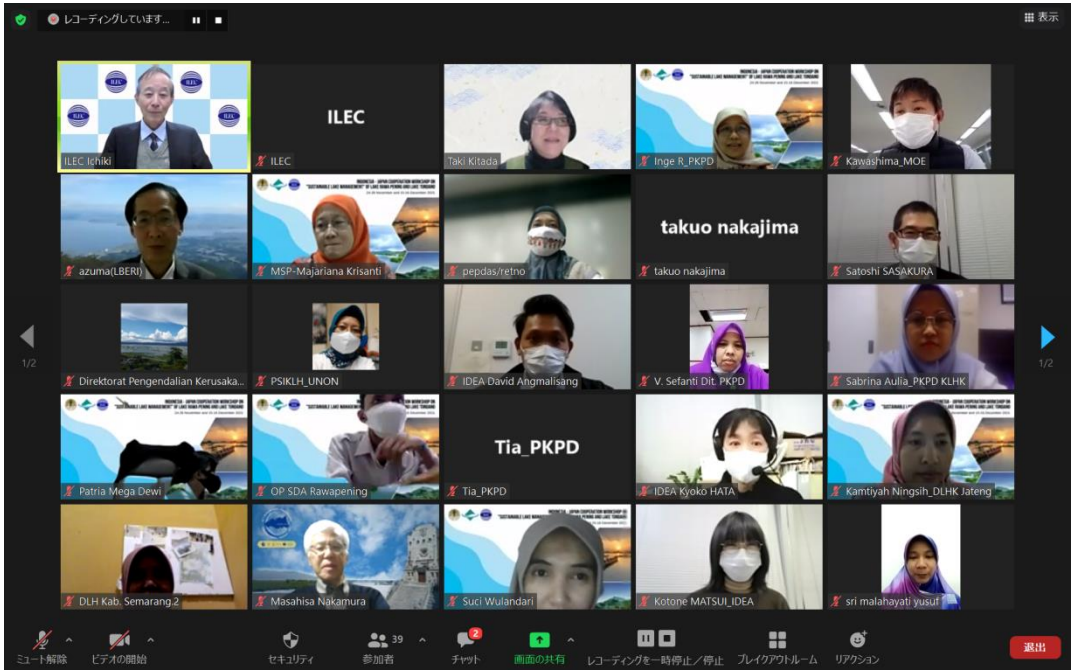
- 4ヵ国7名の研修履修生も参加協力

環境省インドネシア研修（リモート）

「インドネシアにおける湖沼水質改善のための技術協力」研修
〔環境省受託事業〕

第１回(2021年11月24日～26日)
第２回(2021年12月2日、15日、16日)

- インドネシア中央政府および地方州政府行政官等　約70名が参加



ニカラグア琵琶湖モデルセミナー（リモート）

「JICAニカラグア琵琶湖モデルセミナー」〔滋賀県受託事業〕

2021年7月30日、8月6日

- JICAニカラグア事務所職員およびニカラグア政府関係者等
  約90名が参加

４．地域社会貢献活動
JICA関西の地域理解プログラムに協力
（2021年12月17日）

JICA研修員の日本理解の深化促進となる地域開発体験プログラム

「琵琶湖をめぐる開発と保全の教訓」に協力

会場：滋賀県立琵琶湖博物館

対応：中村副理事長、井手理事

地域社会貢献プロジェクトに協力
（2021年12月12日）

事業名：第２回 びわ湖まるっと親子セミナー「みんなでつくるびわ湖の未来」（オンライン開催）

近畿労働金庫、びわこ豊穣の郷との共催

参加者：52名

- 「世界の湖とその問題を知ろう」・・・ILEC
- 「富栄養化した内湖に豊かな生態系を作る試み」・・・びわこ豊穣の郷
- 「マイクロプラスチック・ストーリー～ぼくらがつくる2050年～」上映

若者世代の参加支援：WLC18

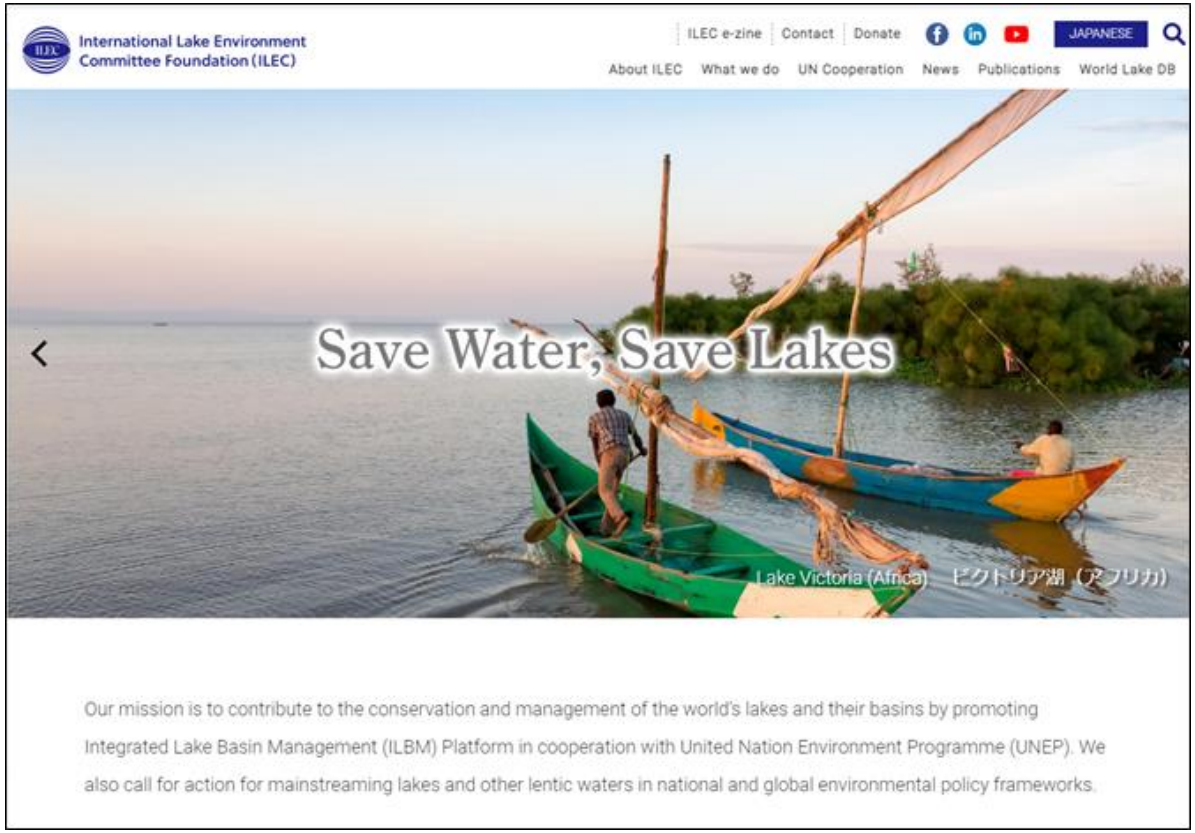
- 「ハイブリッド絵画展示」（2021年11月）
  日本・メキシコ両国の小学生による絵画展示に協力
  滋賀県下の絵画コンクール受賞作品をメキシコ現地および
  オンライン上で展示し、子供の視点から水や湖の大切さを発信。

- 「高校生セッション」（2021年11月）
  日本・メキシコ両国の高校生による意見交換を支援
  滋賀県下の高校より有志10名が事例活動報告を行う。

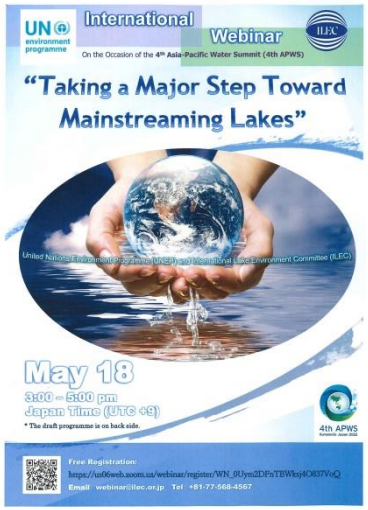
- 「びわ湖・滋賀セッション」（2021年11月）
  琵琶湖で活躍する大学生が地元住民と連携した
  保全活動の取組を発表を支援

アウトリーチ活動の充実に向けて

- ILEC広報媒体を活用した今後のアウトリーチ活動の充実、団体活動の見える化に向け、ホームページの改善に取り組み、2021年12月にリニューアル公開を行った。



追加報告：第4回アジア･太平洋水サミット関連イベント UNEP-ILEC国際Webinar開催（2022年5月）



目的：世界的な湖沼問題への取組を推進

共催者：UNEP & ILEC

テーマ：『持続可能な湖沼流域管理に向けた今後の展望』

日時： 5月18日（水）15:00～17:00（日本時間）

主な登壇者：

- UNEP、インドネシア政府
- 日本政府環境省（川又課長）、ILEC廣木理事
- ILEC科学委員：ウォルター委員長、レニー委員

視聴者：20ヵ国、135人

まとめ：Steps Moving Forward

「ILEC中期展望2022」に沿って、下記の活動を推進していく。

1． 統合的湖沼流域管理の推進

➡ UNEA5で採択された決議「持続可能な湖沼管理」の実施に向け、UNEPと共同し統合的湖沼流域管理（ILBM）の更なる普及・推進を目指す。

2． 科学委員会活動の活性化

➡ 統合的湖沼流域管理の更なる推進を目指し、科学委員会との連携を深め、科学委員会活動の一層の活性化に向けた支援を強化していく。

3． ILBM普及促進

➡ アジア・アフリカ・ラテンアメリカ地域を中心に、更なるILBMの普及を進めるとともに、これらに必要な支援ツールの整備を進める。

4． 研修事業の推進

➡ JICAおよびJICA研修履修生との連携強化を図り、より効果的な研修事業の推進を目指す。

5． 地域コミュニティとの連携・協力の強化

➡ 滋賀県および地域関係ステークホルダーとの一層の連携を図り、地域に根差した環境教育事業等に協力していく。